

第112回愛知学院大学 モーニングセミナー

遠い昔の伊勢参り **～朝日文左衛門と歩く～**

NPO法人東海学センター

大下 武



『日本書紀』

崇神六年条

天照大神・倭大国魂、
二の神を天皇の大殿の内に
並び祭る。

然して其の神の勢いを畏りて
共に住みたまうに安からず。

故、天照大神を以ては、
豊鍬入姫命に託けまつりて、
倭の笠縫邑に祭る。

『日本書紀』 垂仁二一五年条

天照大神を豊鍬入姫命より
離ちまつりて、倭姫命に託けたまう。
爰に倭姫命、大神を鎮め
坐させむ処を求めて、・・・
東のかた美濃を廻りて
伊勢国へ到る。
時に天照大神、
倭姫命におしえて曰く、
「この神風の伊勢国は、
常世の浪の重浪よする国なり。
傍国のうまし国なり。
この国に居らむと欲う」とのたまう。
よりて斎宮を五十鈴の川上に興つ。

『古事記』

天孫降臨段

天照大神の御魂代の鏡の神は
伊須受能宮（皇大神宮・内宮）
に拝き祭る。
次に登由宇気神、
此は外宮の度相の坐す神ぞ。

止由氣宮儀式帳

時に大長谷（雄略）天皇の御夢に
誨え覚し賜て「吾高天原より
この地に鎮りましぬ。

然るに吾一柱のみ坐して甚だ苦し。
よりて大御饌も安んじて聞し食さず。
故に丹波国の比治乃真奈井に坐す
我が御饌都神、等由氣大神を
我が許に欲す」と誨え覚す。

ここに天皇驚き悟り賜て、
すなわち丹波国より度会の
山田原に行幸せしむ。

（延暦二三年（八〇四）撰進の書）

頼朝寄進状

寄せ奉る 御厨家 合せて一処

武蔵国崎西・足立両郡の内、

大河土御厨

右、件の地は元相伝の家領なり。

しかるに平家天下を虜領するの比、
押領するところなり。

しかるに今、新たに公私の

ご祈祷の為に、豊受大神宮の御領に
寄せ奉り、長日の御幣、

毎年臨時の祭り等を

勤仕せしむるところなり。

抑々権神主光親をして天下泰平を
祈請せしむるところ・・・

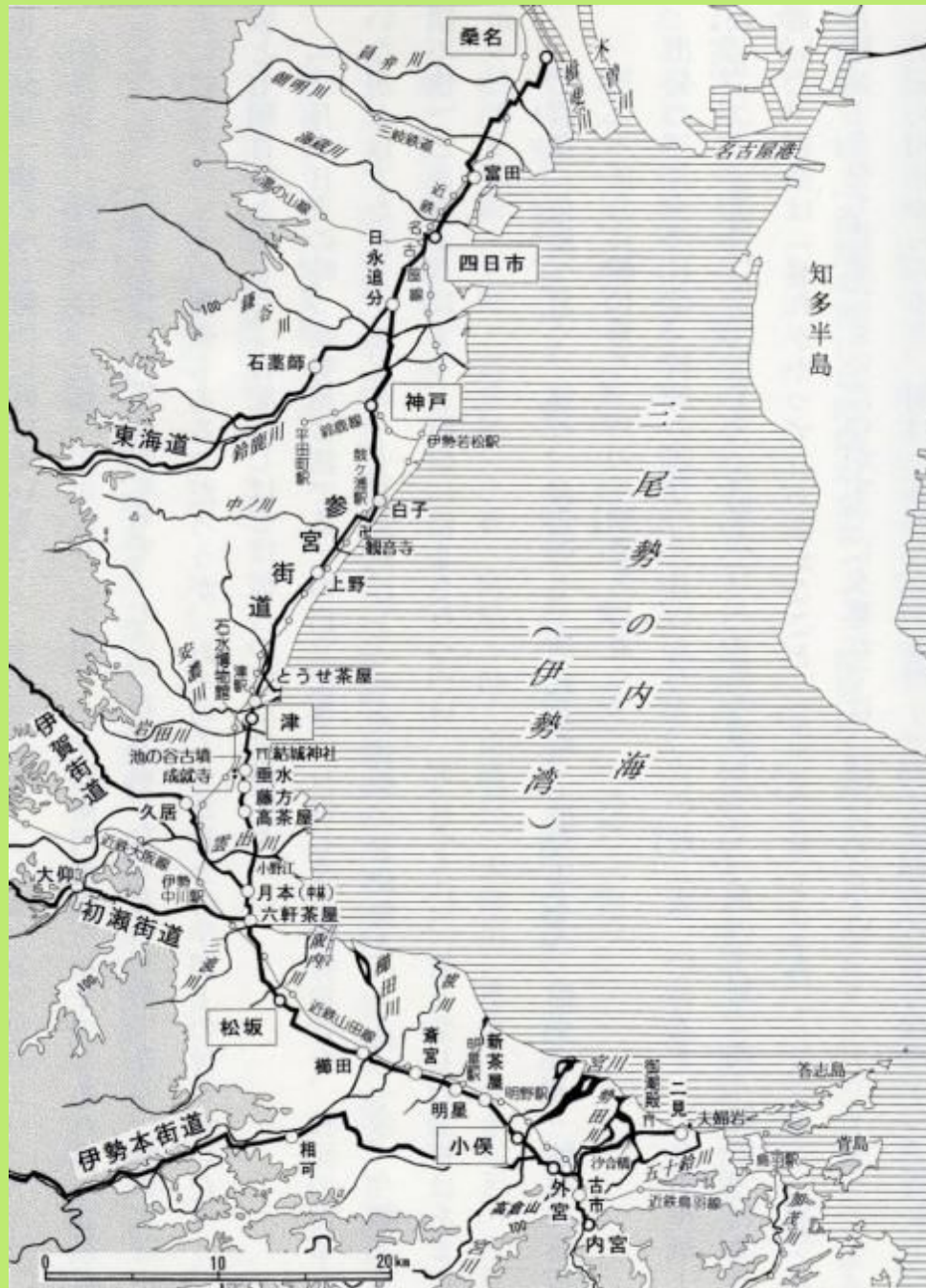
寿永三年正月日

前右兵衛佐朝臣（頼朝）



7 現在の東区主税町界隈

伊勢参宮街道





七里・三里の渡しルート



熱田の七里の渡し（常夜灯）



白鳥橋から大瀬古橋を見る